

2011年1月15日
第192号

題字 住谷悦治



燎原社
(京都の民主運動史を語る会)
代表 岩井忠熊
事務局
京都市左京区高野東開町1-23
第三住宅33-302 井手幸喜
〒606-8107
tel & fax 075 (722) 3823

情報スクラップ	文献紹介	「京都の戦争展」と私の戦後体験 吉田保さんに聞く(上)	小田切明徳
	『近現代日本社会運動家自伝・回顧録 解題	蜷川虎三知事の思い出 その人柄・思想と府民・府職員の力(4)	井手幸喜
	創刊当時の『夕刊京都』のこと(8)	内外情勢の激動に誘発された紙面の新展開	川上博司
	悼 茂山千之丞さんを偲ぶ	一ノ瀬秀文	井上吉郎
14	12	8	5 4 2

連載

この一枚



戦後最初に誕生した労組
京都市電気局労組の結成大会

1945年11月5日

メーデー歌でデモも

京都で戦後最初に再建された労働組合は、1945年11月5日設立の京都市電気局労働組合である。「9月中旬、九条、壬生車庫を中心に、バスにもよびかけ組合づくりに着手、私が結成準備委員も

京都で戦後最初に再建された労働組合は、1945年11月5日設立の京都市電気局労働組合である。「9月中旬、九条、壬生車庫を中心に、バスにもよびかけ組合づくりに着手、私が結成準備委員も

長、そして11月5日の結成大会で初代委員長に選ばれた」と末沢勝次氏(のち京都市議)が「京交30年のあしあと」で語っている。

「思えば、市電労働者が、他都市同様、戦前に労働組合結成を念願して幾度か組織化を試みたが、その都度幹部の犠牲者があり、また、事前に当局の

切り崩しにあって持続できず、多くの犠牲者を出し、無念切歎のうちに血を吐く思いで結成しても、当局の

犠牲者を出し、無念切歎のうちに今日を迎えたのである。苦しみが長く大きい程、喜びはまた深く大きい」

(京交30年史)

結成大会は新聞会館(現在の京都新聞社)で開かれ、大会後円山までデモ行進、メーデー歌を高唱した。当日採択された「綱領」には「我々は、一切の軍国主義ならびに経済組織の武装化を否定し、平和にして、且つ、進歩的な新生日本の建設を期す」とある。

迎春

2011年 元旦

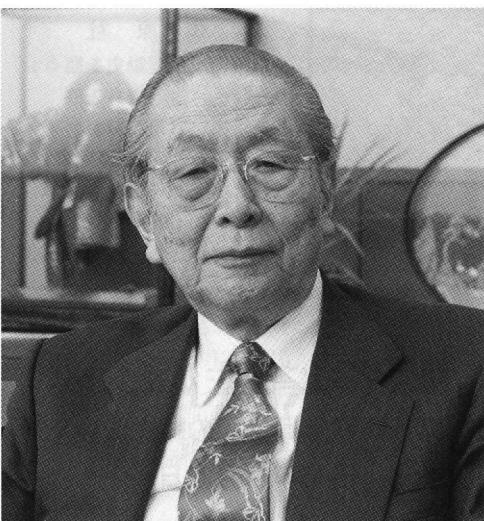
京都の民主運動史を語る会

代表世話人 岩井忠熊
世話人一同

「京都の戦争展」と私の戦後体験

関西文理総合学園理事長・
元機関紙協会事務局長・
吉田 保さんに聞く

(上)



機関紙協会や関西文理総合学園（長浜バイオ大学）理事長、「平和のための京都の戦争展」などでご活躍の吉田保さんに話をお聞きすべく出かけました。例会でもお話をいただけたそうですから、吉田さんのご都合のよろしい時に例会を持ちたいものです。

(聞き手) 小田切明徳

峰山で労働運動、そして入院
——吉田さんが民主運動と関わられるようになった原点は、丹後・峰山における労働運動だそうですが……

私の職場は日本計算機で、全金支部として活動していました。組合といつても当時は会社の親睦団体のようなもので、組合の態をなしていました。これではアカンと、2人で会社と団交をしました。300人ほどの職場でしたが、会社側からは激しい攻撃がありました。8時半まで残業をした後、組合会議をしました。その時の食事といえば、バターを湯に溶いた飯に鰹節をぶつけて食うというお粗末なものでした。こうした悪条件がたり、肺病になってしましました。会社の健診で判明しました。会社の健診で判つたのですが、絶対安静とすることと、峰山中央病院に入院しました。入院すると三度三度の食事が出され、あつと言う間に太ってしまいました。

1955年
吉田 保
（昭和30）年4月、23歳の頃でした。
入院中、患者自治会を組織して食事の改善を要求しました。医療扶助に関する要求をまとめ厚生省まで押しかけたこともあります。その時の患者同盟の専従書記として、青谷や宇多野、桂などのサナトリウムで指導をしました。当時、山村工作隊のメンバーの中にも結核になつた人がいて、宇多野療養所にも入院していました。無給のボランティアでしたから、仲間が食事を終えた後の残飯を食べて組合活動を指導していたのです。

出身組合が全金だったことから日本電池へオルグに出かけたこともあります。この時も経営者が対抗していました。私はこの入院中に2度のストライキを指導しました。その間、食えない時期には行商をやつたこともあります。そうこうしているうちに、元の職場への復職の話がありましたが、会社は就業規則を改悪しましたが、会社は解雇行為だと、東京の中央労働委員

機関紙協会の事務局次長に

——次に、機関紙協会との関わりをお話しください。

こうした経緯があつて日本機関紙協会京滋支部の事務局に入るこになりました。当時の建物は、川端丸太町北にあつた古い事務所（教育会館）で、元は大正天皇の御大典の時に建てられたものだそうです。その建物には京教組や日ソ協会などの民

今号の執筆者紹介

小田切明徳（おたぎり・あきのり）本会世話人。伏見区在住。
井手幸喜（いで・こうき）本会世話人。左京区在住。

川上博司（かわかみ・ひろし）京都府職員退職者会会長。元京都府職員労働組合執行委員長。山科区在住。

一ノ瀬秀文（いちのせ・ひでふみ）大阪市立大学名譽教授。元「夕刊京都」記者。大阪府交野市在住。
馬原 郁（まはら・いく）本会世話人。左京区在住。
井上吉郎（いのうえ・きちろう）〈webマガジン・福祉広場〉編集長。北区在住。

主団体も入つていて、機関紙協会はその一室を借りていました。京都総評とも良い関係にあり、機関紙協会評も良いました。私の担当は教文情宣で、使命感を持つてオルグに出かけていました。充実した面白い仕事でしたので、毎日張り切っていたのです。

機関紙協会の体制は、組織と印刷とに大きく分かれていました。印刷の方は、鉄筆を握ってカリカリ音を立てて原紙を作り、記事の書き方、見出しの工夫など、さまざまにたたかいに即してやつっていました。手書きによる機関紙・会報づくりのための技術指導もしていました。ほかにも、プロパガンダとは何か、アジテーションはどうあるべきか、など労働者が納得して立ち上がるうように、労組の幹部らに日刊職場新聞や労組新聞を発行するようオルグをはたらきかけました。

やがて機関紙協会は、タイプ印刷のためのタイピストの雇用、写植機の導入とオペレーターの配置、輪転機による高速印刷など、目まぐるしい技術革新に対応しつつ、各団体の多様な要求に即して応えていました。春闘で島津からの要請がくる、守山から解雇撤回闘争への支援要請、京都総評とも共同してやるようになりました。やがて沖縄の復帰闘争では「共同デスク方式」で取り組む

デパートで「第1回戦争展」

ことになります。こうした経験が次に活かされていくことになります。

——その経験が、「平和のための京都の戦争展」に発展していったのですね。

デパートで「第一回戦争展」

日本機関紙協会京滋地方本部3周年の記念事業として華やかにやろうということで取り組んだんです。機関紙協会では、1団体1新聞という方針で活動してきましたが、加盟数500～600人、200団体が集まり、共同デスク方式による1つのテーマで宣伝活動を行いました。沖縄の祖国復帰のキャンペーんもその一つです。この時に共同で制作したチラシを沖縄に送り、現地で撒いてもらいました。大変好評でした。共同デスク方式は、メディアを駆使した宣伝へと進化したわけです。平和というテーマ1点で結集してもらうことで広く深く浸透する宣伝活動ができるようになりました。祖国復帰にいささかの貢献ができたと思います。

こうした経験を基にして1982年、第1回「平和のための京都の戦争展」を開催しました。その頃は教科書問題などもありましたが、日本による中国への侵略の事実を集めることが大事だということで、戦地に行った人たちの遺書や遺品を仏壇か

機関紙協会の体制は、組織と印刷とに大きく分かれていました。印刷の方は、鉄筆を握ってカリカリ音を立てて原紙を作り、記事の書き方、見出しの工夫など、さまざまなもので即してやつっていました。手書きによる機関紙・会報づくりのための技術指導もしていました。ほかにも、プロパガンダとは何か、アジテーションはどうあるべきか、など労働者が納得して立ち上がるよう、労組の幹部らに日刊職場新聞や労組新聞を発行するようにオルグをはたらくかけました。

やがて機関紙協会は、タイピング印刷のためのタイピストの雇用、写植機の導入とオペレーターの配置、輪転機による高速印刷など、目まぐるし

こうした経験を基にして1982年、第1回「平和のための京都の戦争展」を開催しました。その頃は教科書問題などもありましたが、日本による中国への侵略の事実を集めることが大事だということで、戦地に行った人たちの遺書や遺品を仏壇か

ら出してきてもらつて借りる、中には砲弾を受けた鉄兜も出してもらうなど、集め回りました。陶器の手榴弾をもらいに五条坂に行つたこともあります。こうしたものがぞろぞろと出展されたのです。会場となつた近鉄百貨店では、細野武男先生が開会の挨拶をされましたが、その時間には私たちはフランフランになつていました。会期中7万人もの入場者がありましたから、近鉄百貨店には感謝されたはずですが、右翼も大挙してやつてきました。「嘘っぱちをいうな！」などと大音量の拡声器で恫喝するので、百貨店の上層部がびびってしまい、「やめようか」という意見も出たらしいのです。しかし一方、京都新聞社の白石社長が「こんな貴重な平和運動は続けるべきだ」と各方面に交渉してくれ、2回目からは岡崎の勧業館を会場に開くことができました。

私は丹後の峰山に生まれ、峰山高校に進み、両親には内緒で少年志願兵に入隊しました。峰山にも特攻の基地があつて、いつでも出撃できるように訓練が続けられていました。「赤とんぼ」と呼ばれていた特攻の飛行機が墜落したこともあります。すでに戦争末期になつていきました。私たちは松根から出る油を製油して飛行機の燃料とするために、近くの松林に松根油を掘りに行つていたのです。ゲートルを巻き、木炭自動車で毎日学校へ通つていましたが、峰山地方にもアメリカ軍のB-51やグラマンの飛ぶ音が聞こえるようになります。海岸線ぎりぎりを経ヶ岬になりました。向かう貨物船が機銃掃射を受けた時、裏の神社まで弾丸が飛んできました。1人が死に、7、8人が負傷しました。あわただしく応急処置する様子を身近に見ていました。そんな状況

は砲弾を受けた鉄兜も出してもらうなど、集め回りました。陶器の手榴弾をもらいに五条坂に行つたこともあります。こうしたものがぞろぞろと出展されたのです。会場となつた近鉄百貨店では、細野武男先生が開会の挨拶をされました。その時間には私たちはフラフラになつていました。会期中7万人もの入場者がおりましたから、近鉄百貨店には感謝されたはずですが、右翼も大挙してやつてきました。「嘘つばちをいうな！」などと大音量の拡声器で恫喝するので、百貨店の上層部がびびつてしまい、「やめようか」という意見も出たらしいのです。しかし一方、京都新聞社の白石社長が「こんな貴重な平和運動は続けるべきだ」と各方面に交渉してくれ、2回目からは岡崎の勧業館を会場に開くことができました。

重な平和運動は続けるべきだ」と各方面に交渉してくれ、2回目からは岡崎の勧業館を会場に開くことができました。

私は丹後の峰山に生まれ、峰山高校に進み、両親には内緒で少年志願兵に入隊しました。峰山にも特攻の基地があつて、いつでも出撃できるように訓練が続けられていました。「赤とんぼ」と呼ばれていた特攻の飛行機が墜落したこともあります。すでに戦争末期になつていました。私たちは松根から出る油を製油して飛行機の燃料とするために、近くの松林に松根油を掘りに行つていたのです。ゲートルを巻き、木炭自動車で毎日学校へ通つていきましたが、峰山地方にもアメリカ軍のB-51やグラマンの飛ぶ音が聞こえるようになりました。海岸線ぎりぎりを経ヶ岬に向かう貨物船が機銃掃射を受けた時、裏の神社まで弾丸が飛んできました。1人が死に、7、8人が負傷しました。あわただしく応急処置する様子を身近に見ていました。そんな状況の中、網野海岸にアメリカ兵が上陸するという噂が飛び交いました。刺身包丁を磨いで「米兵と差しで闘つて死ぬ」というオヤジもいました。そうこうしているうちに8月15日、「重大放送がある」と聞かされ、一つしかないラジオの前に集まりました。かすかに音が聞こえただけで内容までは聞き取れませんでしたが、その真意は後で聞くことになります。

近現代日本社会運動家自伝・回顧録解題

2010年3月刊

は著名名や、蒋介石に敵対した立場をとった景梅九の回想録。更には在日の人びとの回想録なども収録され、児玉譽士夫の自伝やライオン歯磨社長小林富次郎の伝記なども含まれている。

加藤周一と京都

12月例会で湯浅氏が語る

かつて当会の活動を評価頂いていた故田中真人氏、勤務されていた同志社大学人文科学研究所で、企画・運営の中心として、おすすめになつて研究プロジェクトの研究成果の一部が本年の3月、表記のタイトルでまとめられた。田中氏が代表であつた「近代日本の社会運動家—その書誌学的総合研究—」(04)06年度)、07)09年度の「近代日本の社会運動家の総合的研究」(代表は出原政雄

氏)の研究成果として、編纂された文献目録とその解題である。

凡例には「基本的に、近現代日本の社会運動家の自伝・回想録を中心にして、収集した約2000ほどの文献データのうち、約800の著作に関する解題を収録した」(凡例)とされ、文献そのものは関西女の労働問題研究会などの研究会組織で編纂・執筆されたものや、旧友会・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟・国民救援会・レッドページ国家賠償要求同盟などの編集になるもの、刊行委員会や偲ぶ会、遺稿・追悼集(もちろん私家版も含めて)、かつ出版社や新聞社等が編集・編纂した文献など多様な文献が収録されている。

自伝或いは個人への回想を対象とした文献で取り上げられた人物は有名・無名を問わずおよそ400名に及ぶ。文献の刊行年でいえば、戦前・戦中が40点、比較的最近の文献

打たれているが、従来の社会運動家のイメージで、この「解題」に目を通されると違和感が生じるかも知れない。右から「左」までの運動を包み込んだ文献の「解題」といえば分かり易いだろう。

社会に対する様々な運動に関わった人々の自伝や回想録、或いは関連した人びと、団体の記録の紹介として手に取られるべき文献で、詳細は省くが、大変有難いのは

「原書を検索するための手引き」(凡例)以上の丁寧な解題が付されている文献が多いこと。索引はないが、目次は文献で紹介されている人物・団体名をアルファベット順に並べてあり、また、同

と、京都の景観を守るために積極的に運動したこと、東京一極を批判し、政治もふくめ京都への期待感が強かったことなどを述べました。

また白沙会での語らいがヒントになつて「9条の会」結成につながつたという加藤夫人・矢島翠さんの言葉も紹介、「知の巨人」といわれるが、「情」の人でもあつたことを強調しました。12月5日は2回目の命日だけに加藤氏への追悼の思いを新たにしました。

有名・無名の400人 右から「左」まで包み込む

が中心となつており、09年までの文献が収録されている。

紹介子からすれば、60年代の「学生運動の諸潮流」の回想記などが収録されていることは抵抗感がないでもないが、戦前野坂参三のアメリカ西海岸の活動を支えたジョー・コイネダの自伝。国民党そしてのちに

立命館大学国際関係学部名誉教授に就任以後、20年間の付き合いのなかで感じた加藤氏の京都への特別の思いや、居酒屋で加藤氏を囲んだ「白沙会」の果たした役割について語りました。その中で、若い日、京都の古寺・庭園を訪ね歩き、日本文化論の出発点「日本の庭」を上梓したこ

と、京都の景観を守るため積極的に運動したこと、東京一極を批判し、政治もふくめ京都への期待感が強かつたことなどを述べました。

また白沙会での語らいがヒントになつて「9条の会」結成につながつたという加藤夫人・矢島翠さんの言葉も紹介、「知の巨人」といわれるが、「情」の人でもあつたことを強調しました。12月5日は2回目の命日だけに加藤氏への追悼の思いを新たにしました。

『自伝・回顧録 解題』はA4判
264頁。非売品。

(本名は沈乃熙、自伝『懶尋旧夢錄』

(井手幸喜) 本会世話人

の落城」「自民党政の実現」を許すこととなりました。

山田芳治副知事の裏切り

1976年（昭和51年）12月の衆議院選挙に、山田副知事が社会党から立候補する動きがありました。

私たち、蜷川さんと会い「反対すべきだ」と言いました。蜷川さんは「東京から社会党の成田委員長が来られて、山田副知事を衆議院選挙の候補者として欲しいと言われば拒否できない、本人の意思に任すと言った」。同時に「半年前、山田君に次期知事選挙で、私の後継者として立候補してほしいと話をした。私は拒否してくれると確信している」

十、出会いからの思い出

二人の副知事

当初、「民主党政の会」は、78年知事選挙の候補者に松尾賢一郎副知事を推そうとする動きがありました。松尾さんは、府内の農協などにも影響力があり、有利とみられていたからです。

しかし、蜷川さんが反対しました。京大時代の教え子であつたからか、その理由はわかりません。

松尾さんは、副知事を辞任してから自民党政の林田府政のもとで、京都府の外郭団体の役員へ天下りしまし

と言いました。
私たち、山田副知事に会い「立候補を拒否すべきだ」と言いました。山田副知事は「拒否できない。今後は国会議員としてやつていただきたい。」と宣言しました。

78年京都府知事選挙は、「民主党政の会」が推す京大教授の杉村敏正候補と、自民党が推す林田悠紀夫候補の対決になろうとしていたところへ、山田芳治が国会議員を辞任して「反共・反蜷川」を表明して社会党から立候補しました。

選挙の結果は、革新分断によって、林田悠紀夫の当選を許し、京都府政は自民党政へ変わりました。

た。また民社党の永末国會議員の後援会長にもなりました。

林田・松尾・永末さんは、海軍の同窓で軍隊時代の絆の強さを感じます。林田府政の人事は「一に海軍、二に三高、三・四是なくて、五に舞中」と言われたことにも示されています。

私たち、労使交渉などで長い関係にあつた松尾さんが、副知事を辞任したとき、八坂神社近くのチャンコ鍋屋へ招待し、懇親しました。

松尾さんは、「いろいろな人と飲んだり、食べたりしたことが一回も

ない。はじめての経験だ。招待してもらつて、こんな嬉しいことはない」と言つた「喜びの言葉」を、私は忘れないことができません。松尾さんと一緒に議員として蜷川府政を支えていく」と言いました。
山田さんは、京都府知事選挙で落選は、政治信念で私たちの考え方と異にますが、眞面目できれいな人であったと思います。

山田さんは、京都府知事選挙で落選

後、再び国會議員に返り咲きましたが、体調を崩し、消えていました。

私は、二人の副知事と接して、政治家には何が必要なのか、政治家の資質とは何なのか、考えざるを得ない付き合いでした。

黒田大阪府知事の思い出

71年に当選した黒田了一知事は、蜷川知事と会うため何回か京都を訪れました。黒田さんも、大阪府の知事選挙に「黒田応援」に行きました。

黒田さんは、京都へ来たとき、裏寺（京極の裏通り）の飲み屋のノレンをくぐつて秘書課の職員と一杯飲んで帰るという庶民的な知事でした。

私たち、大阪府職労の役員とともに、黒田知事に何回か招待されました。黒田さんは、浴衣姿になつて酒を酌み交わし、みんなに話しかけ意見を求めました。

黒田さんは、京都へ来たとき、裏寺（京極の裏通り）の飲み屋のノレンをくぐつて秘書課の職員と一杯飲んで帰るという庶民的な知事でした。私たち、大阪府職労の役員とともに、黒田知事に何回か招待されました。黒田さんは、浴衣姿になつて酒を酌み交わし、みんなに話しかけ意見を求めました。

蜷川さんの自宅を訪問して

府職労執行部と蜷川さんとが、知事室で懇談することが度々ありました。私が感じたことは、蜷川さんが

「知事対職員」という立場でなく、同じ目標をもつ仲間であると「対等の立場」で話をしてくれたことが印象的でした。

府職労執行部は、いつ頃から忘れましたが、蜷川さんの誕生日の2月24日に、お祝いに自宅へ行く習慣がありました。

私も最初に行つたとき、小さい木造建て、狭い部屋に本がぎっしり、床が落ちそうになつていてるのにびっくりしました。いつか忘れましたが、蜷川さんの自宅へ行つたとき、次のようなメモと品物をいただきました。

……「府職の皆さん、今日で二十二年目（知事になつて）、皆さんに拍手してもらって、ウキウキするとともに、何か身のしまる思いがします。みんなで祝杯をあげましょう。

ビール二〇本、ジュース二本。合わせて二二とは、老人の計算……。

蜷川さんが知事を辞してから3年目の1981年2月24日、自宅へ行きました。しかし、会うことができませんでした。3日後の27日、蜷川さんは偉大な生涯を終えました。

私たち、蜷川さんの思想と業績を引き継ぎ、発展させていかねばと決意し、葬儀に参加しました。

眞実一路

創刊当時の『夕刊京都』のこと

(8)

一ノ瀬秀文（大阪市立大学名誉教授）



沼田稻次郎記者の解説

そのことを象徴的に示す事例を紹介しよう。48年4月14日付の『夕刊京都』1面トップに、「赤い霧」か「西欧連合」か—世界が固睡のむきに、イタリア総選挙」というタイトルの囲みの大きな解説記事が出ており、左にスター・リン・旧ソ連首相、中央にデ・ガスペリ伊首相、右にトルーマン大統領の顔写真が並んでいる。筆者は、なんと、「沼田記者」とある。のちに、東京都立大総長となつた沼田稻次郎である。労働法が専門の沼田がこのような記事を書いたことに驚嘆を禁じ得ないものがある。

それは、とにかく、この「政治地圖」（略）付きの、解説の一節を引用しておく。

こうして48年を迎えることになつたが、1月6日に米陸軍長官が演説の中で「日本を反共の砦にする」と先に決まっていてそれで出馬したのか。出馬したために交替となつたのかといふことも不明である。

安岡と能勢の役職交替が先に決まっていてそれで出馬したのか。出馬したため交替となつたのかといふことも不明である。

當時、安岡が編集局長となつたことで『夕刊京都』の紙面が後退するのではという危惧をわれわれは抱いた。この年に入つてからの紙面の大変な変化は、国際ニュース、海外ニュースのウエートが激しくなり、その数が圧倒的に増えたこと

四 紙面の新展開——48・49年

内外情勢の激動に誘発された

47年4月の株式会社化と増資に伴う『夕刊京都』の紙面が『土曜日』的特徴を喪うかのような徵候を示しながらも、革新的なオピニオン・ペーパーの立場が守られたことを、前回に述べた。

48・49年になると、「東西対立」、「革命と反革命」の激化という情勢が世界と日本を掩うに至り、連合国軍GHQの占領政策に「逆コース」的性格が強まってきた。この傾向はすでに47年から始まっていたが、48年にいるとそれはハイ・テンポとなり、激烈な様相を示しはじめた。

『夕刊京都』が進歩的なオピニオン・リーダーの役割をどのように果たそうとしたかということに絞らざるを得ない。

ところが、そのことにもかかわるが、47年4月に能勢克男が編集局長を辞任し、同年4月20日投票の参議院議員選挙に日本共产党候補として出馬し、最下位（9位）で落選している。入れ替わって安岡哲三が編集局長になった。疑問として残るのは、能勢がなぜ創刊して1年に満たない

（注1）『戦火に巻き込まれた大学』シリーズの執筆者は無記名であるが、大学廻りの長い経験と認識を持つていたのは徳井記者だけであつたから、彼の筆になることは確実だと言える。仏教系大学については森龍吉の執筆によることは確かである。

能勢編集局長が辞任、共産党から参院選出馬

ここでは、情勢そのものについて解説し、論じている紙幅がなく、余力もない。そのようなわけで激動的情勢の中に投げ込まれた48・49年の

ていた。しかし、47年の紙面の基本的な部分は守り抜かれたし、安岡は状況と立場をよく弁えた人物であつた。京都新聞から来た年配のベテラン記者徳井義男にしても大学担当でシャーベーの記事を書き、余人の追随を許さない蘊蓄を持っていた（注1）。その彼が、社内ではわれわれのような後輩に控え目な態度で接していたのが極めて印象的だった。

（注1）『戦火に巻き込まれた大学』シリーズの執筆者は無記名であるが、大学廻りの長い経験と認識を持つていたのは徳井記者だけであつたから、彼の筆になることは確実だと言える。仏教系大学については森龍吉の執筆によることは確かである。

（前略）もしイタリア総選挙が人民戦線側に凱歌が上がれば、合法赤色政権が成立し、その結果は米英の確保してきた地中海ラインをソ連が分断する結果となり、したがつて東はギリシャ、トルコにおけるトルーマン・ドクトリンの実現は致命的な打撃を被るであろうし、西は直

接百八十万のコンムニストをもつフランスの動向に深い影響をあたえ、北はオーストリアを赤い霧につつみこむことになるであろう。(中略)

かかる情勢に対し反共に強硬な意思を表明しているトルーマン大統領はマーシャル計画の実施を急ぎ、イタリアの政局に重大な関心を寄せ、イタリア人の「失地回復」運動にほのおを燃やすべく英、仏とともに三月二十日トリエストをイタリアに返還するとの爆弾的共同声明を発表するなど総選挙を前にしての働きかけは活発化し、人民戦線勢力に打撃を与えたようである。なお、その上に米国との対伊戦債免除などの手も考慮され、イタリア国民の投票に心理的効果を百分の二以上もたらしている。（略）

全文を紹介すれば、この解説が玄人はだしとも言えそうな、実にハ

日本でも、48・49年に国民の政治意識は大きく変化していた。とくに、後述するように隣国の中中国で共产党の指導的影響下にある人民解放軍の攻勢が蒋介石ひきいる国民党の支配下の拠点都市を陥落させ、みるみるうちに人民解放区が拡大していく状況が、新聞やラジオを通じて日本の国民に強く印象づけられた。また國

イ・レベルの内容であることが判るのであるが、紙数の都合で略した。4月22日、23日にこの選挙の開票結果がトップ記事で示され、上院、下院の両方で「反共派」キリスト教民主党その他」が「人民民主戦線」を大きく破って勝利したことを報じてゐる。

太郎が2位、2区では河田賢治が1位で当選した。全国でみると、当選者数は民主自由党264、民主党69、社会48、共産35、その他合計466という結果で、民自党と共産党的躍進が著しかった。

世界の政治動向伝え
INSと特約結ぶ

このように、重大な政治的出来事が相次ぐ時代局面に入ったことにより、新聞の本来的役割である報道の機能と活動を強化することがますます重要となってきた。

そこで、かつては「三・四・二・一」の人民戦線」の動きや思想、文化情勢を伝えることを目的とした『土曜日』の精神を日刊の一般新聞のかたちで展開しようとした『夕刊京都』は、やはり、ヨーロッパからさらに世界全体の政治動向を詳しく伝える方向に軌道を修正する必要に迫られたのである。

な作業は並大抵のエネルギーではできなかつた。この二人でこなしてゐた。紙面づくりには、このようなことが加わつてしまつた。

京都の、この時期の選挙として、2月下旬に行われた右京区府議補欠選挙があつた。府議補選など普通ならばこういふ

京都の、この時期の選挙として、2月下旬に行われた右京区府議補欠選挙がある。府議補選などはどの事柄ではないが、1名の定員に11

そこで、例えば、INS（インターナショナル・ニュース・サービスク）との直接の特約を結び、UP=共同、AP=共同その他の一般的のルートだけでなく、報道に独自のカラーアートを持たせようとする事にもなつた（図参照）。まさに正鵠を射たものであった。

(注2) I N Sは、1909年に、W・Rハーリストによって創業された。U P、A Pと並ぶアメリカの3大国際通信社の



JINS特約を結ぶという広告（「夕刊京都」49年2月9日）

内では、共産党と労働組合運動や学生運動・婦人運動との相互増幅作用もあり、政治的革新の要求が高まっていた。49年1月23日の総選挙では、

名の候補が立つた。そして、なんとか共産党の春藤候補が他の10名を抑え、当選を果たした。京都という歴史的由緒のある都市が、このようない出事を経ながら共産党の強い地域として知られるようになった。

一つであったが、1958年にUPIと合併してUPIとなった（ウェキペディア）。

このようにして、『夕刊京都』の紙面は報道、それも国際情勢の報道にも重きを置く新聞に大きく変わつて行くことになった。48・49年の『夕刊京都』のページを開いて真先に目が行くのは大きな活字が躍つてゐる世界的な出来事の報道、たとえば、48年2月1日の1面トップ「ガングジー翁暗殺さる！」「世界に響く銃声三発」という見出しの記述に目が走るであろう。

そして2月2日付では「ガ翁暗殺」とインド政界—右翼の進出へ、日印融和の悲願遠し」のトップ記事があり、同日の同紙下段の「文化」欄に相当するところに、佐保田鶴治（立命館大学教授）「聖血をそがせたもの」（談）、宮本正清（日仏学館教授）「☆人類愛と自己犠牲☆ロマン・ロランの『ガンジー論』」（談）、そして、宮本顯治（文芸評論家）（談）「ガンジーの死から」の三つのエッセーが、大見出し「ガンジー翁を偲ぶ」でくくられている。宮本顯治の見解がこのようなどころに出ていて興味があるが、紹介を略す。

新聞というのは、元来、オピニオン・ペーパーとニュース・ペーパーとの両方を兼ね備えたものであつた。『夕刊京都』は、このようにして、時代の変化に即して成長したのである。

北川鉄夫の中国革命報道

しかし、ここでどうしても触れておきたいことがある。48年半ば頃から中国人民解放軍の攻勢が急激な勢いで燎原の火のように、あの広大な中国全土に広がりはじめ、難攻不落と言われた拠点都市をも陥落させ、ついに中華人民共和国の成立となつた。この過程のドラマティックな展開とその広大な範囲と多様性、この革命の想像をこえる苦難、こういったことについて専門的解説やエッセーを書いてきたのが映画評論を本業とする北川鉄夫だつた。

前にも記したことがあるが、彼は46年8月に満州から引き揚げ、11月に夕刊京都に入社しているが、帰国早々、入社前の時点で中国の内戦問題や関東軍支配崩壊期の満州の状況などについて詳細な論考を何篇も寄せていた。

48年7月25日の記事では、通信社からの情報に基づいて独自に作成された精細な「中原」地域の軍事勢力配置図（略）とともに、彼の戦局分析と展望が示されている。この解析のなかで、北川は、「中共側」が農村解放区の改革だけでなく、都市の労働者政策を持つようになり「労農」—極東のカギ中国、世界政治この革命に集約」という評論を寄せている。そしてその隣りの社説「今年こそ農村の徹底民主化を」の「冒頭要旨」には、「東洋の命運は農民の動向如

年度下半期に中共が長江渡河に成功するか否かを大きなトピックとしてさらに変化をみせ、その動向の如何は、東洋全体に響くところ大なるものがあつた」

内戦の状況の推移、注目に値する戦局の展開などなどのニュース報道は、これ以後連日のように紙面を賑わせ、49年10月1日の中華人民共和国政府樹立とそれを承認するか否かの国際的動向などについて絶えることなく報じられている。

そして、48年11月中旬人民解放軍による徐州攻略が終わつた時、K記者（北川）の「中国内戦の転機—決定的段階へ、政府・中共の優劣逆転」という解説記事が出た（48年11月18日）。そこではつぎのように書かれていた。

「国際的に大きな影響を与える内戦の今日の段階は何よりも日本はじめアジア圏地域に重大なテコ入れとなる…。これが更に欧洲の形成に与える力関係をみると、中國内戦が果たす役割は形こそ違え戦後の平和安定への大きな推進力となるものではないだろうか」

49年1月4日付には、中国研究所長の平野義太郎が、「亞細亞の展望—極東のカギ中国、世界政治この革命に集約」という評論を寄せている。そしてその隣りの社説「今年こそ農村の徹底民主化を」の「冒頭要旨」には、「東洋の命運は農民の動向如

何によつて決する。それは中国のみに止まらない、日本もまたそうだ。

極東委の農村民主化十六原則の指令は日本民主革命の課題をついたものである」と記されていた。

以下略するが、これらを見ても、能勢が安岡に交替したが、紙面が基本において後退することはなく、むしろ、ニュース・ペーパーとオピニオン・ペーパーの組み合わせがかつてなくピッタリするようになつたとさえ言えよう。

占領軍が露骨に編集介入

それだけではない。48・49年が「革命と反革命」「東西対立」が大きく表面化し、GHQの政策において、民主的改革の後退、反動的政策の強まり、「反共」政策が剥き出しになつてきた。総司令部民間情報教育（GHQ C.I.E）新聞課長インボデン少佐は、日本の新聞紙面のあり方についてのGHQの方針について毎年各地を廻つて講演しているが、48・49年になると突然「反共」の方針を露わにするようになった。

残念ながら47年と48年のインボデンの講演内容を入手しておらず、49年のものしかない。49年10月1日、インボデンは大阪での日本新聞協会の会合で新聞週間の意義について講演し、翌々日には、午前中は京都新聞社で同社員および京都日日新聞社員に講演し、午後には京都商工会議

所で都新聞社と夕刊京都の社員に演説している。丁度この頃、私は肺結核を発病していたため出社せず、自宅療養していた（12月に入院）ので、インボデンの講演を直接耳にしていない。講演会場には、「自由な新聞と独裁者は共存しない」「新聞の行くところ自由あり」「新聞はあなたの自由を守る武器」という「日米共通標語」が長い紙に大きく書かれて正面に下げられていた。翌日からの新聞には、このスローガンが紙面に印刷されるなど執拗な動きになつて現れた。

大阪の講演はキチンとした文書の形式になつていて、その中で、十項目の条件に合致しているかどうかで各新聞の可否が判定されると述べられていた。

京都の講演の中でも、つぎのよう

な話が続いた。

「……ところが不幸にして極東においても歐州でも少数の分子が合理性とか、安寧秩序の維持ということに反対している。これらの者はいわゆる共産党あるいは共産党員として知られる人達である。彼らはいわゆる暴力あるいはテロの行動によつて自分たちの支配、独裁的な支配をネラウところのヤカラである」（ママ、『夕刊京都』10月3日）。

抵抗する「夕刊京都」編集

もはや紙数が足りないので十分な紹介ができないが、実はこの日付は

4ページ建になつていて、うち2ページが新聞週間特集に当たられたの

だつた。その4面に当時まだ存命の

北澤楽天が「新聞漫画今昔談」とい

う文を寄せ、「大手振つた政治漫画、

取締りも寛大だった」と記している。

48年10月3日付の『夕刊京都』紙面は、いわば「強制された」紙面となつていて。G H Q C I E局長ニュージェント中佐の声明、米国のマー



「京都まつり」に 「燎原コ一ナ一」

11月14日、左京区の宝ヶ池公園で開かれた「京都まつり」に京都の民主運動史を語る会が初めて「燎原コ一ナ一」を開設した。

宣伝や、第1回京都赤旗つまりの写真パネルの展示、記録映画「日本の憲法」のDVD上映などをいました。今回は、「本の風」書店のテントの一部をお借りして行つたのですが、立ち止まって見て行く人も次々、宣伝になりました。

ホームページ開設！

<http://ryougen.net>

30周年を記念して「燎原」のホームページを開設しました。例会の報告・案内、「燎原」の目次、電子ブック版の創刊号から150号までの索引などが見られます。ぜひご活用ください。

シャル国務長官声明、芦田均首相新聞週間あいさつで全面が満たされたという極端なものであった。その中で唯一の救いは、「特別寄稿」のかたちで恒藤恭（大阪商科大学長〔當時。のちに大阪市立大学〕）が「新聞と三つの自由」という文章を書いていることである。その中で、恒藤は、第一の自由は「誤解と虚偽からの自由、いかえると報道の真実性への自由」、第二は、「誇張と歪曲からの自由、いかえると報道の適格性への自由」だと説き、さらについに述べている。「公明な態度で事実がとり扱われ、善意をもつて報道記事がつくられることは、一つの新聞そのものに対する究極の信赖の念を支える基礎的条件であり、その新聞の存在理由の一部分をかたちづくるものである（以下略）」と論じていた。

5日付には丸山眞男「新聞の自由と民衆の批判」がある。安岡局長のもとで「抵抗する『夕刊京都』」が編集されていたということになる。これがレッド・ページはすぐそこまで来ていた。（以下次号）

というタイトルで、明治という絶対主義的天皇制の時代に、自由な言論のためにたたかってきた成島柳北のことを紹介した物語が出ている。その解説のところで、「民主主義、左翼思想の台頭は一層言論抑圧を強化（することになった）」などと書かれている。これは、G H Q、占領軍も言論抑圧体制の一形態といふことを暗示していたと考えられる。な

お、4日付には平野義太郎の「新聞週間に寄せて」が「そのものズバリの論考を寄せていて、注目される。これがレッド・ページ前10カ月の状況であった。レッド・ページはすぐそこまで来ていた。（以下次号）

とで「抵抗する『夕刊京都』」が編集されていったことになる。

「異質」を結びつけた才能

茂山千之丞さんを偲ぶ

井上吉郎（WEBマガジン「福祉広場」編集長）

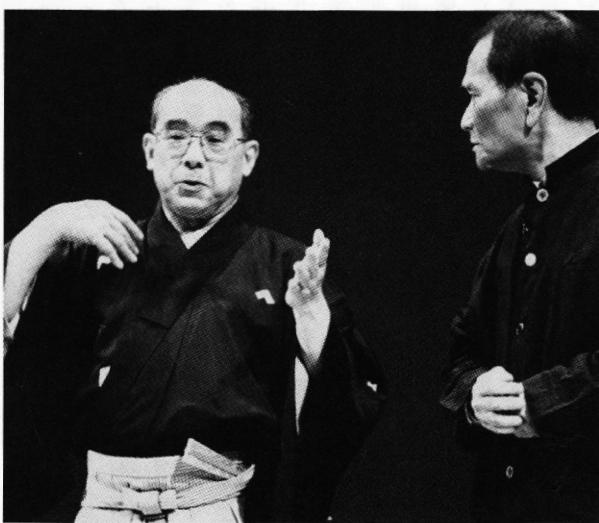
2010年12月4日、茂山千之丞さんが亡くなつた。87歳だつた。観客として、舞台を愉しんだ。演出家としての才能の一端にふれることができた。社会に向かつて、まつとうな物言いを続け、見識を示した姿を見せてもらつた。仕事を離れて、個人としての人柄にふれることもできた。人生の先輩として、恩義を感じている。

マルセ太郎との「至芸対決」

僕は狂言役者としての千之丞さんにお会い前、木下順二の『夕鶴』の与ひようとしての彼に、観客として相対している。会場の隅々まで届くような声に驚かされた。身のこなしや、細部まで行きとどいている。狂言が今ほどポピュラーでなかつた。千之丞さんと直接のお付き合いが始まつたのは「21京を創る懇話会」でだつた。15代御粽司・川端道喜さんをリーダーとするこの組織は、京

都市長選挙でオール与党体制をひっくり返すために組織されたものだが、伝統芸の世界の千之丞さんが、一種の「政治組織」に顔を出してくれて、この組織の安定性がさらに増した。1980年代のことだ。

南アフリカ共和国は、アパルトヘイト体制を敷いていた。その国から放逐された舞台人が「アマンドラ」というグループをつくり、京都府立体育館で



マルセ太郎との競演（1997年5月3日、京都会館）＝撮影・矢吹正夫

5000人の公演をすることになつた。彼ら数十人を歓迎する会を催すことになつたとき、千之丞さんはこれに出演することを了解、会場との打ち合わせにも足を運んでくれた。日本語で演ずる狂言を、日本語を解しないアマンドラのメンバーが愉しんでくれた。1990年のことだ。

千之丞さんと直接のお付き合いが始まりで、違う世界にも手を伸ばした。演出を手掛けた彼は、外国作品を狂言風にアレンジして、僕らを楽しませてくれたし、外国に出かけて公演することも多かつた。狂言風オペラ『モーツアルト魔笛』などはそ

丞さんにあたつた芸人に、マルセ太郎がいる。京都会館で開かれた二人のやり取りは「至芸対決」。二人は初対面、打ち合わせは一切なし、舞台の上には椅子が置いてあるだけだった。二人の真剣勝負を、舞台のそでで食い入るようにみていた。これが芸の力か、憲法を記念する催しだつた。1990年代初頭のことだ。

共同作業所の催しにも出演

NHKブックスに、糸賀一雄が書いた『福祉の思想』があつて、滋賀県の知的障害者施設を狂言師がたずねる記述がある。この施設では、狂言師を招くことに消極的な意見があつた。狂言は伝統芸、難しくて、知り

なかでも印象深いのは、上京ワーケハウス20年を記念する狂言会だ。これも、会場があふれかえるようないひとが、決して安くない（演ずる人の取り分け少ないと）入場料を払つて駆けつけてくれた。その数800人にも及んだだろうか。演目は、梅原猛作、茂山千之丞演出のスーパー狂言『王様と恐竜』。トットラー王に扮した千作の芸が、さえていた。会場（春秋座）、出演者（茂山一門）、原作者（梅原猛）、ボスター制作作者（横尾忠則）、演出家（茂山千之丞）のどれをとっても、超一流の狂言を、障害者施設が主催したことは驚きをもつて迎えられた。千之丞さんの芸当だった。

千之丞さんは、狂言世界にとどまらないで、違う世界にも手を伸ばした。演出を手掛けた彼は、外国作品を狂言風にアレンジして、僕らを楽しませてくれたし、外國に出かけて公演することも多かつた。狂言風オペラ『モーツアルト魔笛』などはそ

鴨川のフランス橋に“待つた”

千之丞さんは1998年7月16日『朝日新聞』論壇に寄稿している（シラクさんは罪なお人や）。1996年から問題になっていた、フランス・パリのセーヌ河にかかる「ポン・デ・ザール」もどき橋を、鴨川の三条と四条の間に作ろうという計画の推進者は京都市長だった。京都

市長に架橋をすすめたのがフランス大統領のシラクさん。日本におけるフランス年・京都・パリ友情・盟約40周年」を記念する目玉事業はこれだとばかりに、京都市長は提案にとびついた。計画が進んでいたとき、千之丞さんはこれに待ったをかけた。その一つがこの論考だ。（私どもがこの計画に反対する事由は、やや感情的とも見られがちな景観論によるだけではない。この場所に橋そのもの国際親善をお題目にして、やみくもにこの計画が推進されているからである）と千之丞さんは書いた。僕は

悼

千之丞さんに資料を渡して、執筆をお願いした。（梅本市長の奔馬のような独走が始まったのである。私どもはただちにポン・デ・ザール風架橋計画の予算執行を凍結して、改めてこの場所に橋が必要なのか否かの論議から始めるべきだと主張する）。先生のエスプリの効いた文章は秀逸だつた。

1999年5月3日の憲法記念日、四条烏丸のすぐ近くの金剛能楽堂（移転前）は500人ほどのひとで超満員だった。「反核・平和のための能と狂言のつどい」の参加者だ。観世栄夫が新作能『望恨歌』（多田富雄・作）を舞い、千之丞さんらが狂言を演じた。前年、千之丞さんのところにお邪魔した時、京都で「反核・平和のための能と狂言のつどい」を開催したいという依頼を受けた。古い能楽堂で、現代的課題に挑戦する。観客はもちろん、多田富雄さんも、観世栄夫さんも、千之丞さんもその成功を喜んだ。

映画「浮島丸」に友情出演
1995年夏、僕らは映画「エイジアンブルー・浮島丸サコン」をつくった。映画人と市民がつくりあげたこの映画に、千之丞さんは友情出演してくれた。1945年8月24日、いた浮島丸が、京都府宇治市で爆発、500人を超える人が犠牲になると

いう惨事に想をとつたもので、日本と韓国を結ぶ骨の太い作品、千之丞さんは、主役の姉妹が下宿する家のはただちにポン・デ・ザール風架橋計画の予算執行を凍結して、改めてこの場所に橋が必要なのか否かの論議から始めるべきだと主張する）。先生のエスプリの効いた文章は秀逸だつた。（千之丞）が朗々としてうたいあげるシーンが印象に残る。

このことを『朝日新聞』は「人欄で扱ってくれ、そこでの千之丞さんの発言を「最近の言葉から」と題して「天声人語」で紹介してくれた（1995年5月28日）。狂言役者の茂山千之丞さん、京都市民などが作った敗戦直後の浮島丸事件の映画に無料で出演。「埋没している事実を事実として残すのは戦中派の人間の義務なのです。……事なきでなく事あれ主義。行動を起こさないと世間に伝わりません」。

計算され、理知的な舞台
千之丞さんの舞台は、計算され、理知的なものだった。（狂言は室町時代にできた。現代で言うと吉本のよいうな笑劇だ）とは千之丞さんの言だが、笑いも芝居も、笑つてすますわけにいかなかつた。どのようにふるまえば人を納得させることができるか、そのことを考えながら、舞台を務めていた。

千之丞さんも、茂山狂言は豆腐のようなものと言つていた。おかげで困つたらお豆腐、京都の知恵だ。伝統芸だと言つて、孤立してはいけない。独りよがりもいけない。晴れの場でも、そうでない場でも、茂山狂言は存在する。豆腐でもご飯の主役になれるし、わき役も務められる。融通無碍が千之丞狂言の本質でなかつたか。

戦争を嫌い、日本国憲法を愛する。そのような考え方を表明することにためらわない、そういう人だった。お願いすることが多かつたが、分厚く大きいノートを広げて、茂山一門の日程をみながら答える姿が印象的だつた。

森羅万象に興味示した人

2010年8月14日、京都コンサートホールで、佐村河内守作曲の交響曲第1番『H I R O S H I M A』演奏会が、秋山和慶指揮の京都市交響楽団で行われた。この呼びかけにお願いしたい、そう依頼したのは

2009年6月、お孫さん（茂山童司）が主催する詩の会の会場だった。僕らの訴えに耳を傾けて、呼びかけ人になることを了解してくれた。新しい才能に、エールを送ることにためらいはなかつた。

狂言役者、演出家、オルガナイザー、コーディネーターであつた千之丞さんは、森羅万象に興味を示す人でもあつた。伝統世界と現代を結んだように、異質と思われているものを結びつける人でもあつた。

千之丞さんに資料を渡して、執筆をお願いした。（梅本市長の奔馬のような独走が始まったのである。私どもはただちにポン・デ・ザール風架橋計画の予算執行を凍結して、改めてこの場所に橋が必要なのか否かの論議から始めるべきだと主張する）。先生のエスプリの効いた文章は秀逸だつた。

1999年5月3日の憲法記念日、四条烏丸のすぐ近くの金剛能楽堂（移転前）は500人ほどのひとで超満員だった。「反核・平和のための能と狂言のつどい」の参加者だ。観世栄夫が新作能『望恨歌』（多田富雄・作）を舞い、千之丞さんらが狂言を演じた。前年、千之丞さんのところにお邪魔した時、京都で「反核・平和のための能と狂言のつどい」を開催したいという依頼を受けた。古い能楽堂で、現代的課題に挑戦する。観客はもちろん、多田富雄さんも、観世栄夫さんも、千之丞さんもその成功を喜んだ。

映画「浮島丸」に友情出演
1995年夏、僕らは映画「エイジアンブルー・浮島丸サコン」をつくった。映画人と市民がつくりあげたこの映画に、千之丞さんは友情出演してくれた。1945年8月24日、いた浮島丸が、京都府宇治市で爆発、500人を超える人が犠牲になると

情報

スクラップ



南京大虐殺描くステージ

3月18日、呉竹文化センター

「戦後、私の家族の中にあつた闇、戦争の加害の罪——の私たち自身の告白であり懺悔なのです」。渡辺義治・横井量子が作・構成・演出・美術・出演の2幕11章。70周年記念公演が3年前、上海・南京で行われ、昨秋のアメリカ公演も絶賛されたという。前売り大人3500円、大学生1500円、高校生1000円(当日500円増)。連絡先=須田稔(本会会員) 8080

能勢克男8ミリ映画 全作品を上映
12月5日、立命館大学充光館で能勢克男（1894～1979年）が撮した小型映画全31作品を一挙上映する会が開かれた。戦前の弾圧対象とな

た「疏水」（1934）「土曜日」1周年」（1937）をはじめ、美学者中井正一と設立したシネフロン制作「季節の旗」（1934）、「京都」（1935）、晩年の境地を描いた「懷古主義者の京都アルバム」（1954）、「秋風安土」（1960）、「巢」（1964）のほか、ホームムービー作品まで多彩な8ミリ映画を午前10時から午

映画

韓国ドラマ・映画人の底力

「済衆院」が描く激動の時代 馬原 郁



一 濟衆院の1シード

2010年は日本が朝鮮を植民地にして100年目とあってマスコミの論評や、テレビも何本か特集を組みました。韓国のソウルでは8月の22日から29日まで、韓国の諸団体と、日本の団体・個人で「強制併合」100年共同行動韓日実行委員会主催による集会がもたれました。私も参加し、そのこだわりから朝鮮半島が歴史的に最も屈辱を受けたその時代を、韓国のドラマがどう描いているか作品を選んで何本か見ました。

聞き覚えのある人物が出てきます。1875年、江華島に大砲を打ち込んで以来、朝鮮に住み着いた日本人、袁世凱や李鴻章、ロシアの政府機関など入り乱れ、ミニ妃が殺されるまでを描く『明成皇后』。親日派、開化派と入り乱れ、シベリアやアメリカに亡命する活動家、李承晚も出てきて、戦後も描く『ソウル1945』。そして最も新しい2010年製作の『済衆院』などがあります。それらの作品では韓国ドラマ・映画人の底力に舌を巻きます。

人は被差別民^{ペクチヨン}、白丁のジョン、そして二人に愛され、まだ女性の人権など全くない古い因習の中で自分の人生を切り開き、後に婦人科の医師となるソンナンです。ジョンたち被差別民は日本で言う「切捨てごめん」的扱いです。ジョンはふとししたことでアメリカ人医師の助手となりますが、治外法権という庇護もあり医学を

か、いつも聞き耳を立て警戒しています。医学生同士で血液の研究をしますが、自分の血液が他人の血液と混じるのか冷や汗です。ソナンの大怪我で輸血はジョンしか出来ません。執刀医の「ゆるめて！」しめて」という合図で管をゆっくりと流れる場は大写し、私は涙がとまりませんでした。意識の回復しないソナンに「私の穢れた血がお嬢さんを穢し

自殺。ジョンは死刑を宣告されます。救援活動を頑張るソンナン。「私は引き下がらない」と奮闘します。官僚息子との三角関係も知的で、せりふもハムレットの名せりふや、論語の一節が語られ、ソンナンの大好きな歌を二人の男が原語で歌う、「懐かしきケンタッキーホーム」。息子は日本の東大へ留学しますが、東大生との喧嘩はテコンドー。「日本での留学生活は大変だった」というだけです。

朝鮮の朝廷は開化派の金玉均キム・ヨクノンと伝統派が争います。伝統派の官僚が「これがお前達の言う開化か」と叫び息絶えます。金玉均はこの時代を描くドラマには必ず出てきます。日本と協力して清国を追い出しますが、朝鮮では嫌われ日本に亡命、

最期は上海で同僚に銃で撃たれます。

後6時30分まで休憩をはさみながら2
80分上映。
同学国際言語文化研究所・プロレタ
リア芸術研究会が主催、途中、雨宮幸
明氏らの報告・発表があった。

京建労が創立60周年で「まつり」

全京都建築労働組合（田辺正男委員長）は創立60周年を迎える11月21日、パルスプラザで「京建労まつり」を開催、1万人が参加した。1950年7月、17人の大工が「京都自由労組大工支部」を結成したのが最初。現在では組合員1万8000人、京都最大の労組に成長している。

日本ベトナム友好協会京都府連が50周年
11月23日に記念のつどいが行われ、

写真家の石川文洋氏が「ベトナム取材46年」を講演、安斎育郎氏と対談も行つた。また50周年を祝うレセプションが行われた。

催し案内

平和友の会学習会「朝鮮王妃殺害と日本人―

日本陸軍は事件にどうかわったか」
講師・金文子さん。2月5日（土）午後1時30分～4時、立命館大学国際平和ミュージアム2階で。参加費300円。
第45回「建国記念の日」不承認府民のつどい
2月11日（金）午後1時30分～4時30分、キャンパスプラザ京都。君島東彦・立命大教授の講演「多面体として憲法9条を見る」など。参加費500円。実行委員会主催。

会員消息

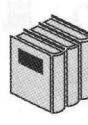
新入会
鰯坂 真（左京区）岩瀬テル子（北区）井上吉郎（北区）一ノ瀬秀文（大阪府交野市）河上洋子（中京区）

貴重な機会に感謝

西沢いづみ（西京区）

大谷良一（城陽市）藤井 進（北区）

編集後記



10月例会（西陣における地域医療運動）のあと、宮田栄次郎さまにお会いし、直接お話を伺うことが出来ました。大変勉強になりました。労働運動とは何か、企業とは異なる、各産業の合同組合の状況と西陣機業者が、労働者ではないという基盤に立っていた話など、大変興味深かつた私ですが、企業とは異なる、各産業の合同組合の状況と西陣機業者が、労働者ではないという基盤に立っていた話など、大変興味深かつたです。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

▼明けましておめでとうございます。歳を重ねるにつれ一年経つのが早く感じます。「新年号」らしくないかもしれません、あいさつの類は省略しました。隔月刊の本誌が「200号」を迎えるのは来年の5月です。このときには特別編集で「記念号」を出したいものです。

京都の民主運動史を語る会 2月例会

戦後京都の府・市議選と各党

とき／2月3日（木）午後2時～
ところ／かもがわサロン

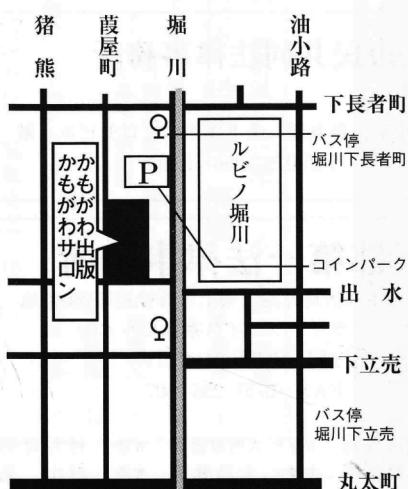
上京区堀川出水西入
☎075-415-7902

語る人 宮田栄次郎さん

（京都社会労働問題研究所）



宮田さんは京都社会労働問題研究所を主宰し、過去数十年にわたり京都を中心に選挙結果の分析、予測を詳しいデータに基づきおこなっています。4月の府・市議会議員選挙を前に語っていただきます。



●例会は隔月開催。どなたでも参加できます。
会員は無料、会員外の方は300円。

▼「この一枚」にふさわしい写真を使わない人には貴重な資料です。
提供してください。アルバムをご覧になつてぜひご協力を。志摩肇さんの「うたごえ」よ高らかに」(1)は次号に掲載します。(湯浅)

京都教職員組合
執行委員長 藤本雅英
京都市左京区聖護院川原町4-13 京都府教育会館内
☎075-752-0011 FAX075-751-1091

京都市教職員組合協議会
京都市左京区聖護院川原町4-13 京都府教育会館内
☎075 (771) 9171 FAX075 (751) 0851

京都市職員労働組合
中央執行委員長 池田 豊
〒604-8571 京都市中京区河原町御池
電話075-222-3883 FAX075-222-3893

(社)部落問題研究所
〒606-8691 京都市左京区高野西開町34-11
☎075-721-6108 FAX075-701-2723

京都民主医療機関連合会
京都市右京区西院久田町9
建設会館5F

京都民医連中央病院
〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町16-1
☎075 (822) 2777
<http://kyoto-miniren-c-hp.jp/>

**社団法人 信和会
京都民医連第二中央病院**
京都市左京区田中飛鳥井町89
☎075-701-6111
URL <http://park12.wakwaku.com/~kyoto2hp/>

'11
明けましておめでとうございます

元旦

京都自治体労働組合総連合
執行委員長 山村 隆
京都市中京区壬生仙念町30-2ラボール京都5F
〒604-8854 電話075-801-8186 FAX075-801-3482

福祉保育労働組合京都地方本部
執行委員長 前田鉄雄
京都市上京区竹屋町通千本東入主税町1100-1
京都福祉保育総合センター内
☎075-813-4800 FAX075-822-6220

日本国民救援会京都府本部
京都市中京区壬生仙念町30-2ラボール京都5階
〒604-8854 電話075-801-3915 FAX075-822-6632

宇治山宣会
会長 蔡田秀雄
〒611-0033 宇治市大久保町北の山11-1蔡田秀雄気付
TEL0774-48-2472

市民共同法律事務所
京都市中京区烏丸通二条下ル西側ヒロセビル2階
TEL075 (256) 3320

京都第一法律事務所
京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町280番地
マニュライフプレイス京都ビル4階
TEL (075) 211-4411
FAX (075) 255-2507

弁護士 秋山健司	弁護士 大河原壽貴	弁護士 村井豊明
弁護士 浅野則明	弁護士 大島麻子	弁護士 村山 晃
弁護士 荒川英幸	弁護士 奥村一彦	弁護士 森川 明
弁護士 飯田 昭	弁護士 谷 文彰	弁護士 渡辺 馨
弁護士 糸瀬美保	弁護士 藤井 豊	弁護士 渡辺輝人
弁護士 岩橋多恵	弁護士 藤澤真美	

知は力、本のことならおまかせください。

京都唯一の民主書店です

ブックセンター 本の風

☎ 075 (415) 7902
FAX (415) 7900

今年も話題の本をお届けします

株式会社 かもがわ出版

☎ 075 (432) 2868
FAX (432) 2869

心に伝わる本づくり、自費出版の相談は

株式会社 ウインかもがわ

☎ 075 (432) 3455
FAX (432) 2869